

株主優待制度による中国（北京）視察旅行に出発します！

現地ガイドと専用車を手配し、中国最先端テクノロジーの自動運転体験や、以下の観光地巡り、北京で人気のレストランで北京グルメをご堪能いただき、“当社の株主になって良かった！”と思っ
て頂けるような思い出作りに貢献して参ります。

観光地巡り①～故宫博物館

北京故宫、いわゆる紫禁城。北京中軸線の中心に位置し、明、清 24 代の帝王と皇家の夢を結んだ宮殿。中国古代漢族宮廷建築の精華。比類のない傑作。世界で現存する最大規模、最もよく保存された木造古代建築の一つ。太和殿、中和殿、保和殿の三大宮殿を中心に、大小 70 余座の宮殿
樓閣、部屋数 9 千余室。1406 年に造営が始まり、高さ 12 m、長さ 3400 m の城壁、幅 52 m の護城河に囲まれた不抜の堡壘。森厳な九重(きゆうちよう)の天、木造宮殿の布置結構は禁色(きんじき)の黄色い瑠璃瓦、青白の礎石、金碧輝煌(きんぺききこう)の彩画。



観光地巡り②～天安門広場

天安門は明朝永楽 15 年(1417 年)に建造された。原名は承天門で、「天啓を承(う)け 天命を奉じる」意。旧時、統治者が詔書を下して国家行事を行う場所だったが 1919 年 5 月 4 日、反帝国主義と抗日を旗印にした「五四運動」がここで発声、1949 年 10 月 1 日の午後、毛沢東国家主席がここで全世界に向け、「中華人民共和国、央人民政府が成立した」と宣言、1988 年の元旦、天安門は正式に一般公開された。



観光地巡り③～景山公園

景山公園は北京の南北中軸線の中心に位置する。元代に正式に皇家園林として建設され、「青山」と改称され、後に「万歳山」「鎮山」とも呼ばれるようになった。清朝の順治帝の時に「万歳山」が「景山」と改名され、この名前が現在に至ってる。

景山公園は南に故宮を、西に北海公園を臨み、北は鼓樓と遠くから見合ってる。気候：暖



観光地巡り④～天壇

天壇は北京城の南端に位置し、明清時代の皇帝が天地の神を祀り、五穀豊作を祈った廟壇。天壇は園丘(えんきゆう)と祈谷の二壇を含め、塼は外と内の2層に分かれ、「回」の字を呈している。北の囲いは弧円、南の囲いは東西の壁が直角に接している。この「南方北円」の形は、通称「天地の境」、古代の「天円地方(天は円く、地は方形)」の思想を表徴している。外壇の囲いは東、南、北3面に門がなく、西側だけに園丘壇門と祈谷壇門(天壇門)が設けられている。内壇の四周には東、南、西、北4座の天門が設けられ、内壇の祭壇と齋宮(さいくう)の間には東西に仕切る壁があり、南は園丘壇、北は祈谷壇となっている。



観光地巡り⑤～前門大街

前門大街は北京中融線上の南側にあり、570 余年の歴史を持っている。明代から正式に前門大街となる。下町風情のショッピング-ルとして明代中期に形成され、新しく改修された前門大通りは北京オリンピック世界から訪周客を迎え入れた。

今はこの街を歩くと、北京南中軸線に沿って正陽門(前門)一珠市口-天福-永起へ皇家光臨の「御道」が再開、街の両側はすべて往時のたたずまいが再現され、北老舗も再び集まって、「全聚徳」「都一处」「同仁堂」、などがある。その後、MUJ(無印良品) やスター-バックスなども入り、街はオールド北京の光景となつかしの北京グッズ、鳥かご形のランタンや吉祥図案の入った抱鼓石(ドラムストーン、四合院の正門の前に置く)、また、街を走る路面電車の映面の世界に入ったような気分になる。



北京グルメ①～北京ダック

北京ダックは世界で最もファンの多い北京料理。明代の宮廷料理に始まり、清代には満漢全席にも登場した。鴨を丸ごと-羽土製の炉に吊るし、果木で起こした炎で炙り焼きにする。余計な脂がしたり落ちて、ハチミツ入りのタレででかひかの照りを生み出す。かつては、ばりばりの皮だけを薄餅(バオピン)に包んで食し、残りは使用人に下げ渡したというが今は皮つきで肉を切り身にするのが普通。



北京グルメ②～北京炸酱麵(ジャ-ジャ-めん)

日本でも人気があるジャ-ジャ-麵はオールド北京の伝統食。

北京、天津華北一帯で流行した。豚の挽き肉などを黄醬(豆味噌) や甜面醬(ティエンエンジアン 中華甘味噌) で炒めて作った肉味噌を茹でた麵の上に乗せ、よかき混ぜる。具材としてキュウリの千切り、香椿(チャンチン)、モヤシ、グリーンピースなどを用いる。

煮込んだ麵を冷たい水に入れてから、味噌と混ぜる食べなので、「過水麵」と呼ばれる。

